令和元年 9 月 21 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
平成 31 年度 第 8 回

先月の「述の会」（両フォーラム交流会）では、岡本理事長はじめ幹事さんにお骨折り戴き、有意義な時間を過ごすことが出来ました。カラオケでは酒井理事と中谷会員がプロフェッショナルの歌を披露され、皆さん驚かれたと思います。参加者のスピーチでは、皆さんがどういう仕事をしているか、どのような趣味を持っておられるか等々、その方の人となりをお互いが確認することが出来たと思います。よい企画をして戴き有難うございました。

また、7 月の靖国神社の奉納吟詠に参加された皆様に御礼申し上げます。10 月の明治神宮の吟詠には 10 名で参加致します。来年 5 月の本部大会では、詩吟を習った時、一番最初に覚えた詩吟があるはずですから、それぞれの方の原点となった詩吟を紹介して戴きたいと思っています。これは、たまたま私が提案した企画が採用されたものですので、言い出した手前、詩吟メンバーの皆さんにもご協力戴きたいと思っています。こちらもよろしくお願い申し上げます。

人間というのは面白いもので、何かの縁があると物事が動きます。尚且つ、ひとこと言葉を発すると、言葉は「言霊」ですから、人を動かします。その人の発した言葉がぐさっと胸に突き刺さると、良いことにつけ悪いことにつけ、人はそれに反応して動きます。そして、その影響力が大きければ大きいほど波紋が広がります。

身体の手入れ

では、恒例の質問に参ります。

8 月はお休みでした。良い夏休みを過ごされたでしょうか。

○　ここ数か月、比較的良い日を過ごした方

○　ここ数か月、嘘を全然つかなかった方

・・・皆さん正直ですね。では、比較的嘘はつかなかった方

皆さん手が挙がりました。これが日本民族の特色です。白か黒という二者択一ではなく、余裕を持つ。外国の人から見ると、日本人は曖昧な部分を持っています。そういう曖昧な部分があるからこそ、仮に第三次世界大戦が起きたなら、戦争が終わった後に日本が世界

をリードしていく、意識しなくても周りの国が日本を見習うような動きをするようになると思っています。曖昧さが日本民族の特性であり、それが日本語を生んだと思っています。伊勢神宮や出雲大社に行くと、それが実感できるでしょう。

○　ここ数か月、有難うと言い、有難うと言われることが多かった方

有難うと言い、有難うと言われることがない人生は、悲しい人生ですね。出来るだけ有難うと言い、有難うと言われることを増やす努力をすると良いでしょう。

○　ここ数か月、健康法をずっと実践している方

言うは易く行うは難しです。中斎塾フォーラムが始まった頃は、道場での朝稽古に参加される方が結構おられましたが、今朝は梅川代表幹事お一人でした。三日坊主という言葉があります。1 年続けられる人はとても少ない。人間、やらないことの言い訳は何とでも出来ますから。健康法は何でもよいのです。これをやろうと思ったなら、毎日続けることを強くお勧めします。例えば腹式呼吸でもよいので、1 年間、毎日腹式呼吸を続けると身体の中身が変わります。

人間、年をとると動けなくなってきます。頭も回らなくなってきます。60 歳の時はあまり感じませんが、65 歳を過ぎると疲れやすくなったと実感します。人によっては 65 歳で引退し、何もしないでいると体力は坂道を転げ落ちます。無茶をしても、60 歳なら一晩寝れば翌朝は元氣になりますが、65 歳くらいになると翌日に痛みが出る。思い当たる人がおられたら、身体が痛んできている証拠です。70 歳過ぎると、酷い人は 3 日、4 日してからでないと痛みを感じません。それだけ細胞が痛みを感じる能力を失っているわけです。そして 80 歳になると、意識してピンと背筋を伸ばしている人は別ですが、だんだん骨が曲がって老人の恰好になってきます。そうすると転びやすくなる。骨もスカスカになりますから、80 歳過ぎて転んで骨を折って入院すると、だいたい動けなくなりますね。今朝、梅川さんと二人で、骨がスカスカにならない運動（つま先立ちから踵を床にドンと落とす）を実践しました。ポイントは毎日やることです。

健康の話でもう一つご紹介すると、年を重ねるにしたがって、年齢に比例して身体の手入れをする時間を増やさないといけません。60 歳で身体の手入れを 30 分している人は、70 になったら 1 時間やらないと元の身体に戻りません。75 歳になったら 2 時間やらないといけません。80 歳になったら、半日身体の手入れをした方がよろしいでしょう。天風先生は肺が片方だけで眼もよく見えませんでしたから、半日講演に出かけると半日は自分の身体の手入れをしておられたようです。

皆さんもご自分の年齢にあわせて、少しずつ少しずつ身体の手入れをする時間を増やすことをお勧めします。手入れをしないと、どんどん体力が落ちてきます。

○　この数か月、自分磨きをよくやっている方

○　昨晩寝る時に、明日以降のことを過去形でイメージして眠れた方

数名手が挙がりました。いずれ発表して戴く時間をとりたいと思っています。

語らずとも通じるもの

では、論語の視点に参ります。本日は陽貨篇 19～20 です。

【十九】子曰く、予 言うこと無からんと欲すと。子貢曰く、子 如し言わずんば、則 ち小子 何をか述べんと。子曰く、天 何をか言うや。四時 行われ、百物生ず。天 何をか言うやと。

休憩時間に田島監事から、孔子は何を考えてこういうことを言うのかと質問がありました。私は、孔子が絶望感で胸の中がいっぱいになってしまったのだろうとお答えしました。

では、解説致します。

孔子が、「私はこれからお前たちに何も話をしない」と言った。

子貢が言いました。「先生が何も言ってくださらないのなら、私たちは何を頼りにものを判断したらよいのですか。」

・・・言い方を変えると、子貢は口八丁手八丁ですから、「先生なんだから、ちゃんと教えて下さいよ」といったところでしょう。子路であれば、入門したての頃なら「そんなことを言う先生はけしからん、張り倒してくれよう」となるでしょう。後半の子路なら、孔子の袖を揺さぶりながら「先生、そんなことを言わないで下さいよ。私はどうすればいいんですか…」といった具合でしょう。弟子の性格によって態度が想像できるようになると素晴らしいですね。

子貢は口八丁手八丁、頭が切れるお弟子さんです。論語の中で子貢は孔子に、「自分は（一を聞いて十を悟る）顔回ほどではないが、一を聞いて三を悟れる」と答えたという逸話があります。それくらい周りも認めるし自分でもそう思っている人間です。その子貢に対して孔子が答えています。

「天は何を言うだろう。それでも季節は移り変わり、万物は生育する。それは天が命令したわけではなく、自然とそうなるのだ。お前はそこから何かを感じ汲み取れないのかね。私は天の言っていることを肌身に感じているのだ。」

中村天風先生も同じようなことを言っておられます。天風先生はカリアッパ師匠から「地の声が聞こえないのか」と言われ、一生懸命修行して地の声が聞こえるようになる。更に、

「地の声が聞こえれば、天の声も聞こえるぞ」と言われて、必死になって修行するけれど何も聞こえない。どうにもならなくなって草の上に寝ころんで空を見ていると、白い雲に意識が飛んで、雲と一体化した自分を感じたのです。これが、天風先生が「天の声」を聞いた「悟り」の瞬間だったわけです。「悟り」は言葉にすることは出来ないし文字にも書けない、そういう内容のものです。

それを孔子は弟子たちに求めたけれども、弟子たちは自分の後をついて来ない。自分の話ばかり聞こうとする。私の話を聞いたのでは、お前たちは悟れない。このままではお前たちは悟らないままなのだろう・・・というとても深い絶望感があって、こういう台詞を言わせたのだと思います。

これ以上、口を聞きたくない。話をしても通じないのだから、私の歩んだ道をその通り歩んで来なさい、と伝えているわけです。

これを読んで私は、師匠の木内信胤先生を思い出しました。以前、悟道会でメンバー同志で人物評価をしたことがあります。私の場合は、だいたい「態度が大きい。横柄だ。もっと謙遜しなさい」と言われるのです。自分でもそう思いますから甘んじて受けますが・・・。その悟道会で、木内信胤先生をお呼びして講話をして戴く機会がありました。渋谷のホテルに木内先生が到着されて、私が入り口まで迎えに行ったのですが、先生が見えた途端に直立不動、丁寧にお辞儀をして、先生の言われること一つひとつに「はい！」「はい！」となるわけです。ですから、メンバーの人は驚いたのでしょう。ですが、それは相手にあわせて態度を変えたわけではありません。相手の人格とか迫力、その人が持つ奥深いものに感応している時は、知らず知らずのうちに、その人の前に立つとピンと背筋が伸びて、頭を自然と下げるようになるのです。それ以来私は、背筋の伸びない人間と会ったのなら自分がアホか、相手がアホのどちらかだと思ってきました。

【二十】孺悲、孔子を見んと欲す。孔子 辞するに 疾 を以てす。命を 将 う者 戸を出づ。瑟を取りて歌い、之をして之を聞かしむ。

孺悲が孔子に会いたいと出かけてきた。孔子は病気だと言って断った。取り次ぎの者が戸口を出ると、孔子はわざわざ琴を弾きながら歌をうたって、自分は病気ではないことを知らせた。

孔子は孺悲に、私が会わない理由をよく考えなさいというメッセージを出しています。

孺悲は魯の国の人で、君主である哀公から、孔子の所で学んできなさいと言われているから、孔子からすると前々から弟子であったわけです。

直接会って話をしないでも、相手に伝えたいものを伝える。決して相手を見限っているわけではなく、縁をつないでいるのだということを相手に分かるようにする。孔子のこの考え方について、渋澤栄一さんは『論語講義』の中で自分も真似をしようと思うと書いています。そして、「何人が来訪せられても、また初対面の人にても、時間の許す限りは面会して隔意なく談話しおれり」（知らない人が訪ねて来ても、分け隔てなく、自分の時間をやりくりして兎に角会うように努力をする）と残しています。

事実、渋澤栄一さんが朝起きて食事をして身支度をすると、次の間に面会者がずらっと並んで待っているわけです。そして時間が許す限り、2時間くらいは訪ねて来た人に会っていました。とは言っても、あらかじめお付きの人が会わせなければならない順番を決めて並べているわけですが。ですからご本人の氣持ちと実際とは少しずれるけれども、ご本人はとにかく訪ねて来た人には会うと決めていました。そのように渋澤栄一は論語を読み込んでいました。

直接会って話をしないでも相手に伝えたいものを伝える、「阿吽の呼吸」ということで、一つお話致します。

先日、矢野先生のカレントの執筆者懇談会で出光佐三の最後の門下生という方に会いました。再会を約束して、私は今、出光佐三に関する本を色々買って、必死に読んでいます。

出光佐三というと日章丸事件が有名です。もともとイランの石油はイギリスが掘って、イランを大変な石油輸出国にしたわけです。イギリス支配のもと、イランは自国の石油を自由に売ることが出来ませんでした。そこでイランは石油を国有化したのですが、イギリスの反発によって国際社会から四面楚歌の状態になりました。その頃、日本はアメリカの占領下にあって、石油を独自に輸入することが出来ませんでした。出光佐三は「消費者に安いガソリンを提供する」という企業理念に掲げて、世界一のタンカーを造って、イランに石油の買い付けに行ったわけです。そしてタンカー日章丸はイギリス海軍の警戒網をかいくぐり、石油を目いっぱい積んで日本に帰港し安く供給したのです。

出光佐三に関する本を読むと、石油の視点から日本が戦争を起こした理由が理解できます。それについては、また別の機会にお話ししたいと思います。

本の中で面白い記述がありました。佐三が日本一のタンカーを造りたい、世界一の石油精製所を造りたいと資金調達に苦しんでいる時、日本の金融機関はどこもお金を貸しませ

んでした。そこでアメリカの金融機関に融資を申し出るわけですが、その金融機関は、佐三の経営理念や会社の履歴（どういう状況でどんな仕事をしてきたか）をつぶさに調べ、これは応援しなければいけない、これこそ金融機関の使命であると、即答で資本金の 180 倍という金額を用立てたという話がありました。これは、言わず語らずで通じている、「阿吽の呼吸」というものです。

もう一つ、何度も申し上げていますが、シムックスの創業の時の話を致します。日本経済新聞に、政府が警備業者に融資をすると決めたという記事が出ました。私はそれを見てすぐに中小公庫に電話をかけて融資をお願いに行き、借りることが出来ました。後で聞くと、私のような場合、普通はお金を貸さないのだそうです。というのは、政府系の融資機関に電話で融資を依頼してきた挙句、紹介者なしでやって来て、おまけに年商を上回る金額を依頼したわけですから、普通ではあり得ない話です。融資をＯＫした理由というのが、私が会社の将来ビジョンを語った時、眼がキラキラ輝いていてエネルギー感じたというのです。私はその時、「利根警備保障は警備業である。警備業は教育産業である。よって私はお金を借りて第一に教育設備を作りたい・・・」と言ったのですが、おそらく社屋を建てたいというのであれば貸してくれなかったと思います。これも、言わないけれども通じるもの、言ったことを相手が自分の感性で広げて感じてくれるものです。

相手がなるほどと思うような言葉を無意識のうちに話せるには、どうしたらよいか。それは日ごろから「腹中書有り」の「書」を常に磨き続けることです。腹にずっしり収める「哲学」を常に追求し続けることです。そうすると、一貫してぶれない台詞が出ます。お金を借りる時であろうが、仕事をとる時であろうが、社員を教育する時であろうが、一貫して同じ話が出来ます。そうすると、心ある者はそれに打たれて、それなりの行動をとってくれる、そう私は信じています。

時事評論

では、論語から時事評論に広げます。

韓国の文大統領は、自分が仕えた盧武鉉大統領のものの考え方を実行したいと思っているし、自分の身内は北朝鮮にいます。最近のスローガンは、親北反日です。日本・アメリカとは縁を切り中国・ロシアと繋がるという腹がどこまで本当か、中国もロシアもそれが知りたくて、韓国の領空侵犯をしました。韓国がどう動くか、日本がどう動くか、色々な手を打ちながらチェックをしているわけです。

文大統領は何とかして北朝鮮と仲良くなりたいと思っています。祖国統一をして北朝鮮

の核と我々の経済力が一致すれば、あっという間に日本に追いつけると思っている。そんなことが出来るものか・・・というのが専門家の意見です。ドイツを見れば、東西ドイツが統一された途端に経済も落ちて、そこから復帰するのにどれだけ時間がかかったことか。韓国と北朝鮮が統一されたなら、韓国は真っ逆さまに落ちるでしょう。メリットとしては、北朝鮮に若い女性が多いので、韓国の男性と結婚することによって沢山の子供が生まれて少子高齢化から免れることが出来るということぐらいでしょう。

いずれにせよ文大統領はやることなすことアホですね。例えば、最低賃金の引き上げを2018年に16.4%、19年に10.9%アップしました。日本は4年連続3%アップをして、全国平均で901円、東京・神奈川が1000円を超えました。相当ヒヤヒヤしながらがやっているにも関わらず、文大統領はそれを勉強しないで、結果どうなったか。企業は賃金アップを迫られるので人を解雇せざるを得ないし、残った社員に残業もさせられない。失業者が増えて、収入が激減し国民は疲弊しています。ですから最近のデモは、反日デモよりも文大統領排斥のデモの方が盛んになって来ています。しかし、日本の新聞やテレビでは報道されませんね。

韓国の話をしましたから、次に中国を見てみましょう。中国には、長老会議なるものがあります。報道は一切されませんが、なぜ長老会議が行われていると分かるかというと、現役の国家中枢にいる人たちが一斉に休みを取って或る地域に集まる。その時は、その地域の交通が遮断されて一般人が行けなくなります。そして、秘密会議が終わると、中国の重大な政策が発表される。これは、どこかで秘密会議が行われているのだ、という情報がちらりちらり出ています。

中国で今、表面化しているのは一国二制度です。香港も協調して協力に進めるということですが、どこで軟着陸させるか苦労しているようです。軟着陸とは連邦国家にするということです。

では、氣になった新聞記事を申します。仮想通貨リブラに関して、先週（9月14日）の読売新聞に、フランスのルメール経済相が国家の主権が脅かされるのでリブラは認めないと表明したとありました。「パリで開かれたOECD（経済協力開発機構）の会合で、欧州でリブラの運用は許可しない。理由は、通貨に関する国家の主権が脅かされるおそれがあり、犯罪組織に悪用される可能性があることなどを挙げた」と書いてあります。

仮想通貨に対して、国が危ないと思うようになったということです。私は以前から、通貨の時代はもう終わりだと言っています。今、ゴールドの値段が青天井で上がっています

が、その理由はリブラに直結しています。ゴールドを外国人が買っているからですが、その理由は、これから通貨の仕組みが壊れると今の仕組みに替わる何らかのものが生まれるわけですが、それらを担保するのは世界中でゴールドしかないからです。ですから全世界で買いに入っているのでしょう。

残り時間が少なくなりましたので、時事評論はこれくらいに致しましょう。今、世界がきな臭くなっています。世界全体の情勢を見て、日本のおかれている状況を考えなければいけません。来月 20 日の群馬郷学会の講演会で私は、「日本の近未来」と題して話を致します。中国・香港・台湾・ロシア・北朝鮮・韓国・アメリカ・イギリス、といった国々の置かれている立場と、それらがどう絡まりあって今後動いていくか。第三次世界大戦が起きるとすれば、どういうところから起きるかというシミュレーション。その時日本はどう対応するか、どうすれば生き抜いていけるか・・・等々の話をする予定ですので、そちらでお聞き戴きたいと存じます。

ひらめき

本日のテーマは「ひらめき」です。木内信胤先生は総合的直観力を大事にしていました。総合的直観力は「悟り」と同じものだと先生は言っておられました。紹介書籍として『ひらめく人には理由がある』（斎藤勇著　日本教文社）と『カンの構造』（中山和正著　中公新書）を回覧しました。

これは横の知識です。横の知識をどんどん増やしていくと、今この時点でどうしても必要だと思うもの、知りたいと思うものが出た時、集めた横の知識を自分で熟成発酵するように温めて、考えて考えて考え抜いていると、ある日突然ひらめくのです。そういうふうに頭の構造が出来ているのが日本民族です。日本民族はそこが著しく発達しているようです。

横の知識をどんどん集めていって、それを温めて何度何度も考え抜いていくと、自分にとってその時とても必要なものが、ふっと浮かんできます。ひらめくのです。それは心から沸き起こってきます。例えば仕事をとる場合でも、この仕事をどうしても私がやらねばと思うものであれば、それを実現させるための方法が必ず浮かびます。そのカギが総合的直観力です。

お時間が参りました。本日はここまでと致します。有難うございました。